

# 実績概要

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までに実施した健康診断の受診者総数は 940,638 人で、今年度は対前年比 102.0%と僅かに減少した。これを健診種別にみると定期健康診断 381,987 人、生活習慣病健診 354,367 人、特殊健康診断 175,825 人、作業環境測定事業所（延べ）1,999 件であり、特に生活習慣健康診断の受診者数が増加している。

平成 30 年の健康診断の種目別割合は、事業場数で見ると生活習慣病健診 43.8%、定期健診 36.3%、特殊健診 19.9%となっている。一方健診人員で見ると、定期健診 41.9%、生活習慣病健診 38.8%、特殊健診 19.3%であった。

平成 28 年から 3 年間の各健康診断及び作業環境測定の実施状況を推移してみると、平成 28 年と比較し平成 30 年における健診人員では、生活習慣病健診・特殊健康診断で増加し、定期健康診断が減少した。また同様に環境測定の事業場数では、各支部とも増加傾向であった。

## 目次

- |    |         |               |
|----|---------|---------------|
| 1. | 2018 年度 | 健康診断事業の実施状況   |
| 2. | 2018 年度 | 検診項目別有所見率について |
| 3. | 2018 年度 | 作業環境測定の実地状況   |

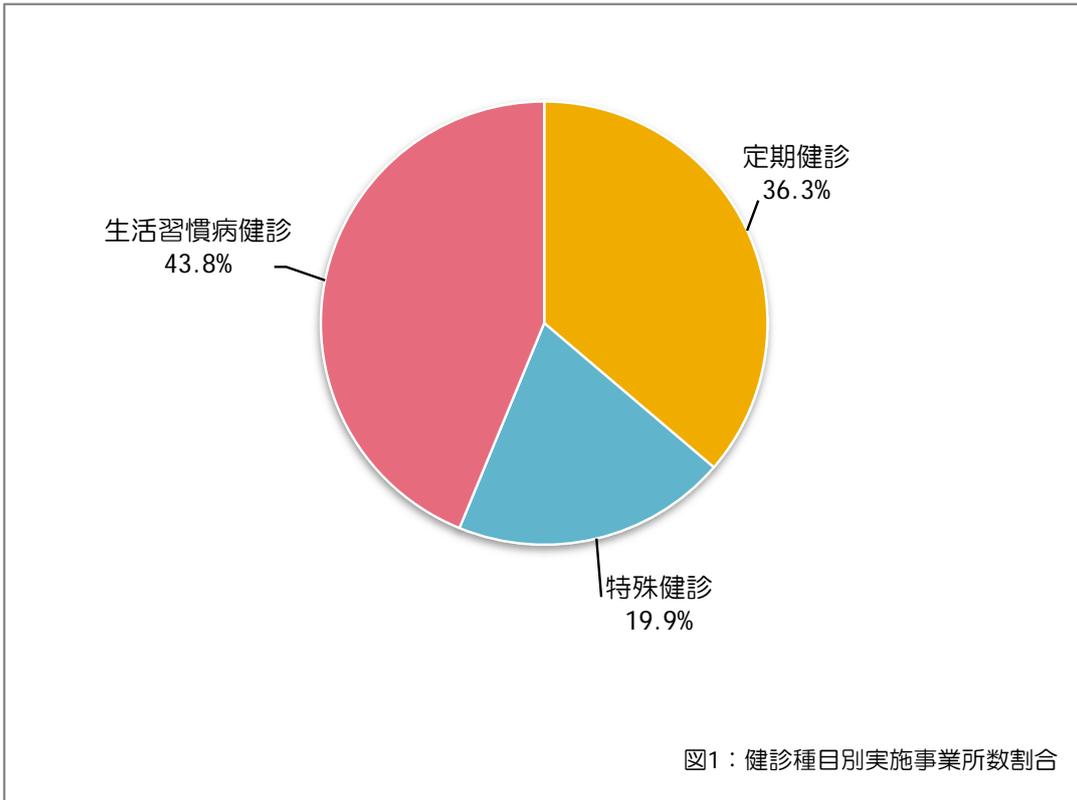
## 1. 2018 年度 健康診断事業の実施状況

2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日までに実施した健康診断の受診者総数は 912,179 人（表 1）であり、今年度は対前年度比 102.0%と若干の増加となった。

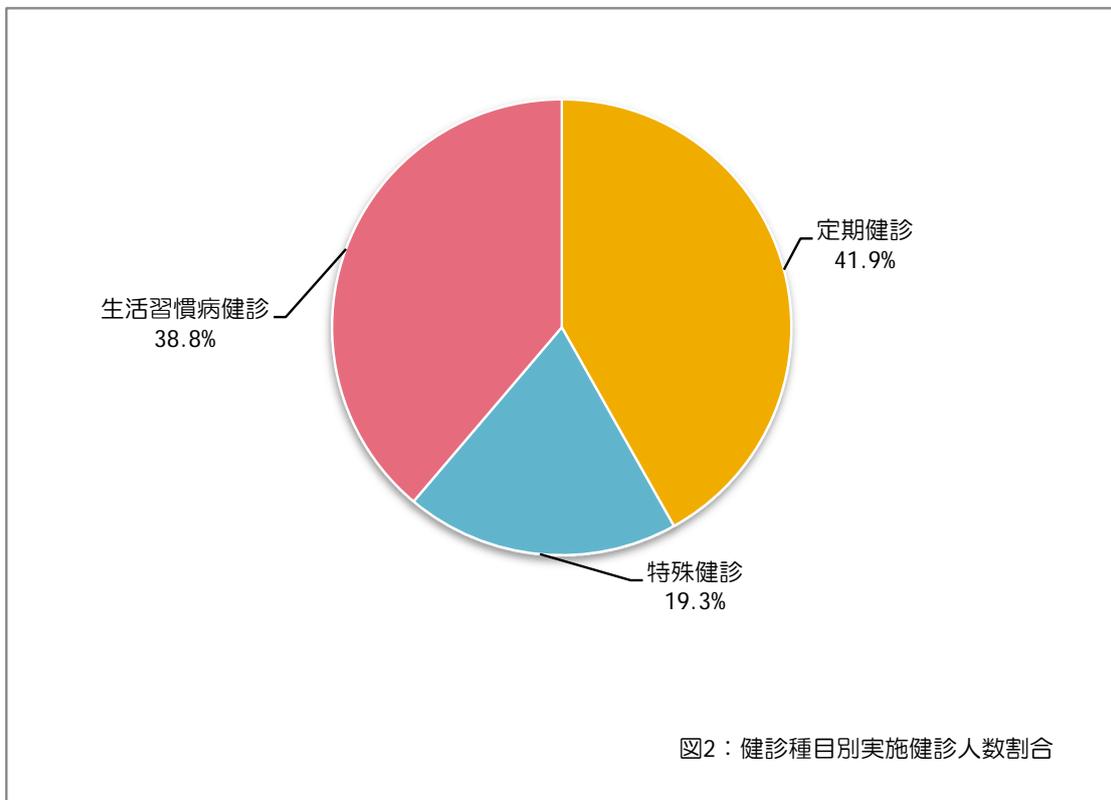
表 1: 健診種目別別件数

	事業所数	健診人数
定期健診	25,291	381,987
特殊健診	13,882	175,825
生活習慣病健診	30,527	354,367
合計	69,700	912,179

2018 年度の健康診断種目別割合は、(図 1)に示す通り、事業所数では生活習慣病 43.8%、定期健診 36.3%、特殊健診 19.9%となっている。健診人員で見ると (図 2)にある通り、定期健診 41.9%、生活習慣病 38.8%、特殊健診 19.3%であり、半数近くは定期健診の受診であった。



2018年度の定期健康診断の受診者数は381,987人で前年より15,338人(前年比4.01%)の減少であった。



\*各図表の構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない場合があります。

## 2. 2018年度 健診項目別有所見率について

労働安全衛生法における定期健康診断の必須項目である身体検査（BMI）、血圧測定、尿検査等の実施者が多く、ほかの健診項目別の実施状況においては（表2）の通りである。

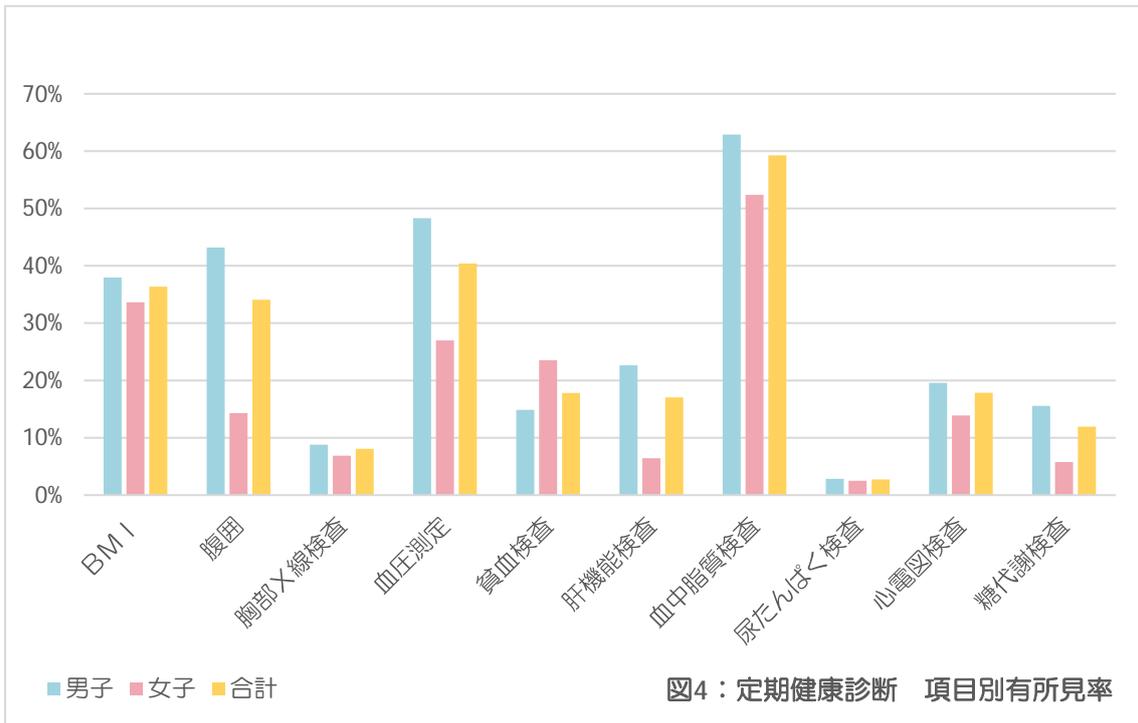
性別、健診項目別に有所見率（要観察、要精検、要医療、治療中の割合）をみると有所見の率が最も高い健診項目は血中脂質で59.3%であり、次いで血圧測定40.4%であった。

	男子	女子	合計
B M I	87,569	45,662	133,231
腹囲	84,835	12,917	97,752
胸部X線検査	17,117	7,984	25,101
血圧測定	111,519	36,596	148,115
貧血検査	28,342	23,192	51,534
肝機能検査	44,279	6,624	50,903
血中脂質検査	120,195	52,545	172,740
尿たんぱく検査	6,694	3,423	10,117
心電図検査	35,434	11,170	46,604
糖代謝検査	35,557	7,721	43,278

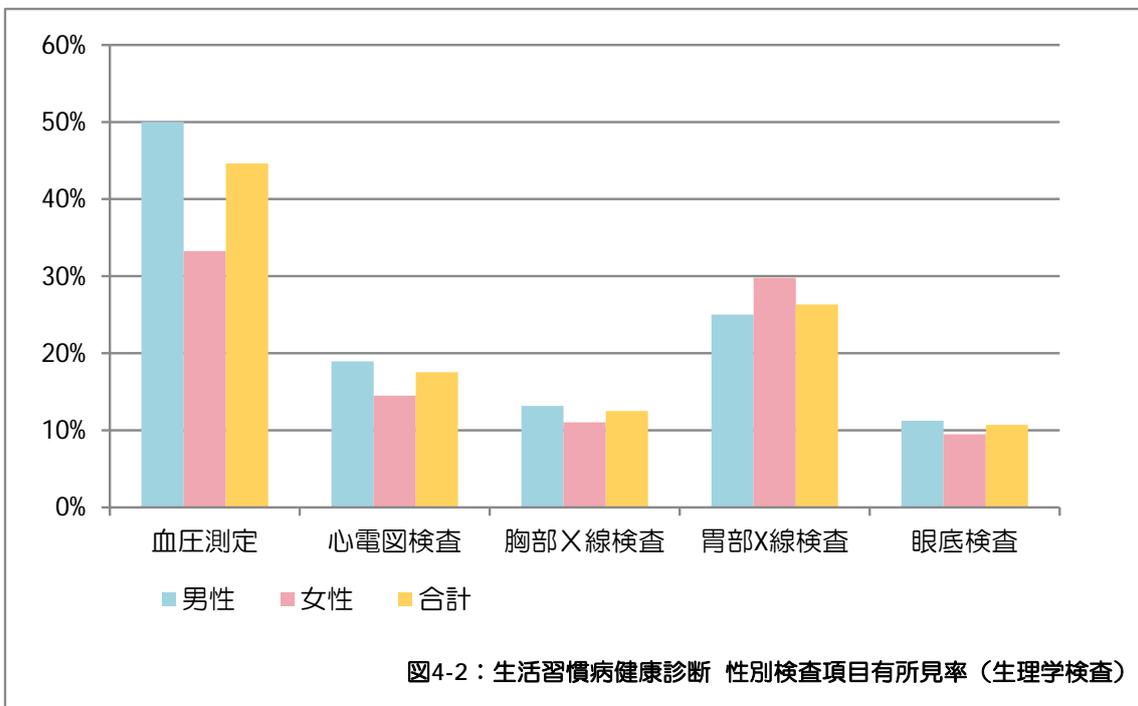
また、定期健康診断の性別、健診項目別に有所見率（要観察、要精検、要医療、治療中の割合）をみる（表3）と有所見の率が最も高い健診項目は血中脂質検査で 62.6%次いで血圧測定 44.1%であった。性別においても男女ともに高いのは血中脂質検査（男性 66.1%、女性 55.5%）であり、次いで男性で高いのは血圧測定（男性 49.9%、女性 32.6%）女性で胃部X線（男性 29.4%、女性 34.4%）であった。

表3：生活習慣病健康診断 検査項目別有所見者数

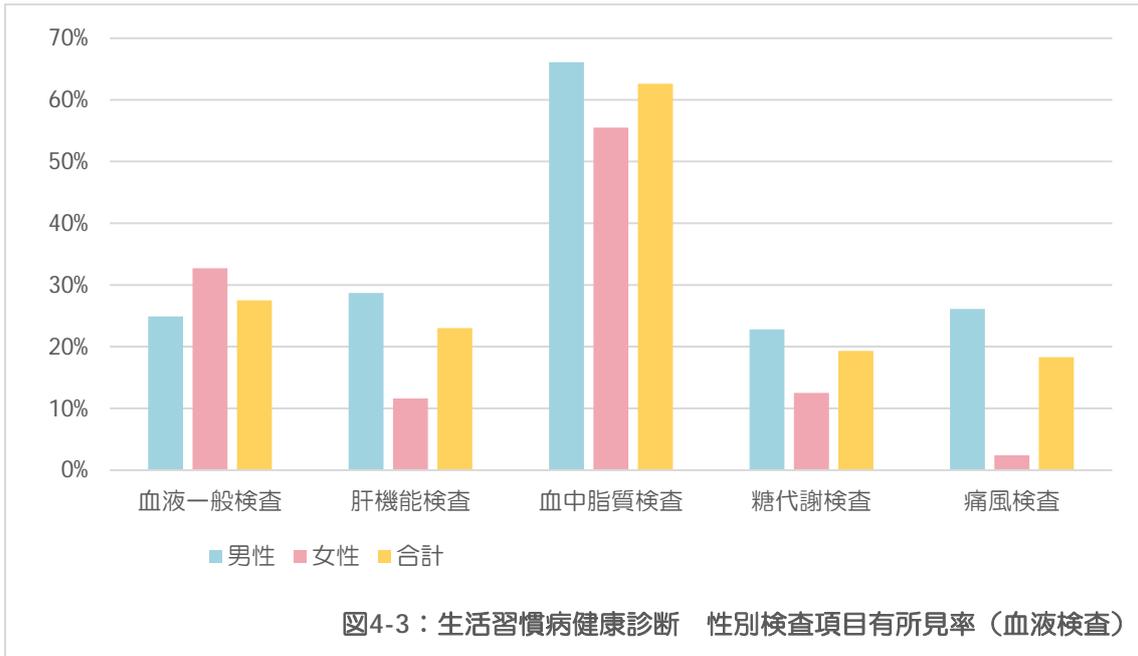
	有所見率		
	男性	女性	合計
血圧測定	49.9%	32.6%	44.1%
心電図検査	19.5%	15.2%	18.1%
胸部X線検査	12.9%	10.7%	12.2%
胃部X線検査	29.4%	34.4%	30.7%
眼底検査	11.6%	9.4%	10.9%
血液一般検査	24.9%	32.7%	27.5%
肝機能検査	28.7%	11.6%	23.0%
血中脂質検査	66.1%	55.5%	62.6%
糖代謝検査	22.8%	12.5%	19.3%
痛風検査	26.1%	2.4%	18.3%
腎機能検査	11.6%	23.0%	15.4%
便潜血検査	5.8%	4.7%	5.4%



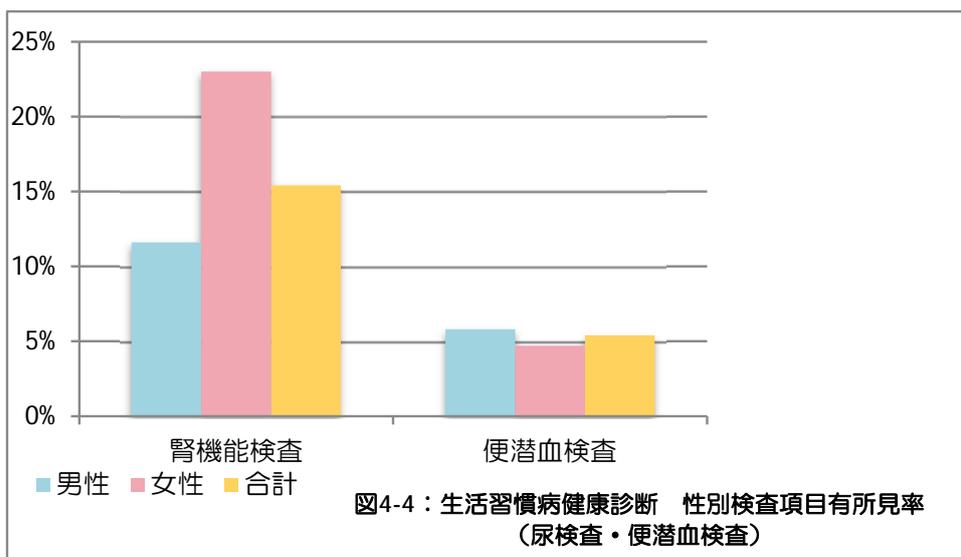
生理学検査で有所見率が最も高いのは男女ともに血圧測定（男性 49.9%、女性 32.6%）であり、次いで高いものは胃部X線検査（男性 29.4%、女性 34.4%）であった。



生活習慣病健康診断において、血液検査で有所見率が最も高いのは男女ともに血中脂質検査（男性 66.1%、女性 55.5%）であり、過半数を占めている。他の検査においては概ね 20~30%であった。



尿検査、便潜血検査では、有所見率は腎機能検査が高く、男性 11.0%、女性 22.6%であった。女性に関しては、男性の2倍以上と所見率に大きく差が見られた。



### 3. 2018年 作業環境測定の実施状況

2018年に作業環境測定を実施した事業場の総数は、事業場で首都圏を中心に青森から大阪まで、1都1府21県に及んでいる。作業環境測定を実施した単位作業場所の延べ数は、7071事業場所で、前年度と比較すると723単位事業場所の増加となった。実施項目別の延べ場所数については、(表4)に示す通りである。

	有機溶剤	粉じん (石綿を除く)	石 綿	非金属類	金属類 (鉛を除く)	鉛	騒 音
合 計	2855	1223	0	2101	393	19	480
対前年増減数	355	74	0	227	46	0	21

実施項目別の状況では、有機溶剤が全体の40.4%、非金属類が29.7%、粉じんが17.3%で、この3項目を合計すると実施全単位作業場所の約86%を占めている。

